（別紙4）　　令和　3　年度

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

| | | | |
|---|---|---|---|
| 事業所番号 | 2190200028 | | |
| 法人名 | 特定非営利活動法人だいこんの花 | | |
| 事業所名 | NPOグループホームだいこんの花 | | |
| 所在地 | 岐阜県関市西神野605番地1 | | |
| 自己評価作成日 | 2021年8月6日 | 評価結果市町村受理日 | 2021年11月9日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

| | |
|---|---|
| 基本情報リンク先 | https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2190200028-00&ServiceCd=320&Type=search |

【評価機関概要（評価機関記入）】

| | |
|---|---|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人　旅人とたいようの会 |
| 所在地 | 岐阜県大垣市橘町1丁目3番地 |
| 訪問調査日 | 2021年9月30日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・新型コロナウィルス感染拡大が続く中、利用者様に感染被害が及ばないよう常に配意した運営をしています。
・本人のそれぞれの個性や健康状態、生活リズムを大切にしながら毎日朝のラジオ体操・清掃、午後からのレクなどを行っています。
・大学で介護を専攻した若い職員が定着してきており、経験豊かな職員と中堅職員及び若手職員のバランスが取れた運営となっています。
・コロナ禍で具体的な活動が中断していますが、ポストコロナ禍を意識して地域やボランティア団体との連絡の維持に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

職員は、アットホームな雰囲気作りを心掛けて、利用者のペースや思いを大切にしている。飲酒や喫煙など利用者の楽しみを少しでも継続できるように取り組んでいる。看取りは行っていないが、状態の変化時には、早い段階から家族に相談して出来る限り事業所で過ごせるように取り組んでいる。家族に夜間宿泊するなどの協力を得て看取りを行ったこともある。入浴を嫌がられる方に対して、声掛けを工夫したり、他の利用者と一緒に盛り上げたりして気持ちよく入浴できるように支援している。管理者や職員は一丸となって、利用者の思いを叶えられるようにアイディアを出し合いながら取り組んでいる事業所である。

## Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| | 項　目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|---|---|---|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25） | | 1. ほぼ全ての利用者の |
| | | ○ | 2. 利用者の2/3くらいの |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいの |
| | | | 4. ほとんど掴んでいない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38） | ○ | 1. 毎日ある |
| | | | 2. 数日に1回程度ある |
| | | | 3. たまにある |
| | | | 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38） | | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | ○ | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37） | | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | ○ | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49） | | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | ○ | 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31） | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 62 | 利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28） | | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | ○ | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |

| | 項　目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|---|---|---|---|
| 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19） | | 1. ほぼ全ての家族と |
| | | ○ | 2. 家族の2/3くらいと |
| | | | 3. 家族の1/3くらいと |
| | | | 4. ほとんどできていない |
| 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20） | | 1. ほぼ毎日のように |
| | | | 2. 数日に1回程度 |
| | | | 3. たまに |
| | | ○ | 4. ほとんどない |
| 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4） | | 1. 大いに増えている |
| | | | 2. 少しずつ増えている |
| | | ○ | 3. あまり増えていない |
| | | | 4. 全くいない |
| 66 | 職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12） | | 1. ほぼ全ての職員が |
| | | ○ | 2. 職員の2/3くらいが |
| | | | 3. 職員の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | ○ | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が |
| | | | 2. 家族等の2/3くらいが |
| | | | 3. 家族等の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどできていない |

# 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| **Ⅰ.理念に基づく運営** | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践<br>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | ・運営推進会議について、コロナ感染拡大で令和3年2月から開催できていなかったが8月に再開できた。同会議の民生委員や自治会長などの教示を受けながらポストコロナ禍に向けた実践を再構築していく。 | 管理者は、アットホームな雰囲気を作り、利用者の楽しみを大切にすることを伝えている。職員は、利用者のペースや思いを大切にして、必要以上に手や口を出さないように心掛けて理念の実践に繋げている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい<br>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | ・地域の文化祭にパネル展示を行い活動状況の紹介や作品展示を行った。今後も各団体の活動再開が少しでも進むよう期待しながら連携していく。 | 散歩に出掛けた時に、地域の住民と挨拶を交わしている。地域の代表者より情報を得て、地域の文化祭にパネルを展示している。大学の実習生を積極的に受入れて職員の採用に繋がっている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献<br>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | ・地域の人達が集まり意見交換をしたり気軽に相談等できる場として、喫茶店を兼ねた交流センターを運営しており、地域コミュニティの充実に寄与している。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | ・コロナ禍のため、推進会議が12月以降開催できていないが、自治会や民生委員など地域活動の中心的な方々との大切な意見交換等の場となっており、今後の地域連携の窓口としていく。 | 会議に事業所の状況を報告して話し合っている。コロナ禍での会議の開催について市の担当者に相談している。地域の行事やコロナ対策、安心して生活できるような工夫などアドバイスを受けて運営に活かしている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携<br>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | ・隔月の運営推進会議の場を中心に、関市の担当職員及び当施設所管の関東地域包括支援センター担当職員と連絡を密にして来たが、推進会議休止中も連携を密にし指導・助言を受ける窓口としている。 | 書類の提出時や電話にて事業所の状況を報告したり、現場の要望を伝えたりしている。市の担当者より、市の職員のボランティアについて依頼があり、清掃などボランティアを受入れて協力関係を構築している。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践<br>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | ・月一回行うミーティングにおいて、玄関の施錠を含む拘束をしない介護の在り方について、個々の事例に対する対処方法を中心に意識の共有に努めている。 | 居室の窓や玄関は、日中施錠しないように工夫している。月１回のミーティングで外部研修の報告や勉強会を行っている。契約時に簡易の同意を得てはいるが、身体拘束に関する書類が整備されていない。定期的な委員会活動も行われていない。 | 身体拘束の具体的な行為や弊害、対応方法など職員が身体拘束について正しく理解できるように定期的に委員会を行って欲しい。 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底<br>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている | ・毎月のミーティングにおいて、各利用者様について、一人づつ認知症の状況を含む心の状態や健康状態の共有をし、相手に寄り添った介護に心掛けている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用<br>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | ・研修は受講出来ていない。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得<br>契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | ・入居前に契約書と重要事項説明書などの関係書類等について、各条項ごとに説明し、理解を頂いたうえで契約するよう努めている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映<br>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ・運営推進会議には、家族の出席を呼びかけ、会議で出た意見の報告に努めている。<br>・月ごとの利用料納入の折に、できるだけ来所頂けるようお願いしており、家族からの意見・要望聴取や意見交換に心がけている。 | 家族が事業所を訪問した時や電話にて状況を伝え、意見等を聞いている。家族より好きなことをやらせて欲しいと要望があり、飲酒や喫煙を望まれる利用者に提供できるように取り組んでいる。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映<br>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | ・月1回のミーティングでは理事長も参加している。また、ミーティング以外でも職員の意見はその都度聞き、相談している。<br>・朝・夕の申し送りで前日からの繋がりを伝えるようにしている。 | 毎月のミーティングや朝の申し送り時に職員の意見や要望を聞いている。管理者は現場に入り一緒に作業しながら職員の意見を聞いている。外灯の設置やゴミの処理方法、行事などに職員の意見を反映させている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備<br>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | ・勤続10年を超えた職員には永年勤続表彰を行っている。<br>・時間外勤務については15分ごとにカウントし、分単位の残については、30分で四捨五入し1時間単位で追加加算している。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み<br>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | ・職員の研修について、勤務状況の許す限り、勤務内として参加できるように努めている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上<br>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | ・市の開催する地域密着型施設の交流会に参加している。（ケアマネ） | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| **Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援** | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | ・事前訪問で本人の生活歴や日常の過ごし方を把握できるようにしている。入所時に希望を聞き取り、安心して生活できるように努めている。本人の住み慣れた土地や好きな物事を把握し、会話に取り入れて行く。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | ・事前に連絡をした際や入所時に家族からお話を聞き、要望等があれば取り入れるように心掛けている。お話を聞く中で家族の不安や困っていることがあれば話を傾聴し、安心できる説明を心掛けている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援<br>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ・今までの生活や馴染みのあるものを引き継ぐよう心掛け、少しでも以前からの継続した暮らしを感じて安心して暮らしていただけるよう配慮している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | ・共に作業したり、掃除をしたり、暮らしを共にする関係を築いている。また、入居者様の健康状態を常に意識して臨機応変の作業内容に心掛けている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係<br>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ・コロナ禍で面会を最小限にひかえていただいているが、通信や電話、面会前に本人の様子を手際よく伝えるよう心掛け、本人と家族が限られた時間の中で心の和む場となるよう努めている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援<br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | ・コロナ禍のため、身近な家族との面会に限らせていただいている。 | 家族の協力を得て、盆や正月に自宅に帰ったり、墓参りに出掛けたりしている。敬老の日に家族から電話があり利用者につないでいる。携帯電話を持っている利用者には、職員が支援して電話を掛けている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援<br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | ・入居者一人ひとりの興味のあることや性格、体調状態などを職員が情報共有し、入居者同士が心地よく会話や行動などが出来るよう心掛け、昼からのレク等は全員が一緒に出来るよう位置付けている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み<br>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | ・体調の悪化により入院し、ホームへ戻ることが困難な場合、退院後の相談をしている。 | | |
| **Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント** | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | ・意思表示のできる方の希望、要望は本人の会話から把握している。困難な方も表情や行動から検討し可能な対応を図っている。 | 食事やレクリエーションの時など普段の会話の中から利用者の思いや意向を聞いている。入浴時に一対一となった時に聞くこともある。利用者の思いを連絡ノートに記入し職員間で共有している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握<br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | ・入居前に担当のケアマネさんより情報をいただき、面接で本人・家族に生活歴を尋ね、情報シートを作り、職員で共有しコミュニケーションに生かしている。入居後も情報把握に努めて介護支援に生かしている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握<br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | ・記録や申し送り、また本人の状態に合わせた入浴、休息、活動を進めている。手作業や工作、掃除などの家事に参加してもらい、現在の有する力の把握に努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ・日常に出た課題をミーティング時に話し合い、家族からは面会時に話を聞いている。ケアプランの全職員での共有は出来ていない。モニタリングを各入居者担当に記入してもらいケアプランの更新に生かしている。 | 利用者毎の担当職員がケアマネと話し合ってモニタリングしている。家族の来訪時に利用者の状態を伝え意見や要望を聞いている。毎月のミーティングで話し合い、医師や職員の意見を取り入れた計画を作成している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映<br>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | ・介護記録や連絡ノートなどを活用し情報の共有をしている。入居者に普段と変わった様子があったり、体調不良があれば、個人記録とは別で介護日誌に記入し共有できるようにしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化<br>本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | ・コロナ禍のため、きめ細かな要望に沿ったサービスの多機能化には取り組めていない。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働<br>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | ・当施設は地域の保育園、小学校、中学校との連携や活発な地域コミュニティに支えられた活動が出来ていたが、コロナ禍のため中断している。コロナ禍の収束を願い協働の絆を維持して行きたい。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援<br>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | ・入居を機に主治医を当ホームの協力医に変更する方がほとんどであり、2週間に一度の往診により健康の維持が図れている。また、急な体調不良があれば協力医に連絡し受診している。 | かかりつけ医の受診は家族が同行している。家族の都合が悪い場合は職員が同行している。家族が同行する場合は、利用者の状態を伝え結果を確認している。職員が同行する場合は結果を家族に伝えている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働<br>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | ・小さな変化・気づきでも記録や口頭で看護師に伝え受診必要の有無を判断している。また、協力医と看護師の連絡を密にし、必要に応じて訪問看護師も活用している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働<br>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | ・入院時から退院時まで医療機関の相談員と連携を図っている。カンファレンスなどにも積極的に参加し退院後につなげている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援<br>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | ・入居時に、当ホームは医療行為が限られていることや看取りを行っていないことは伝えてあるが、重度化した際にはどのように対応していくのか家族の希望を取り入れるようにしている。 | 契約時に、事業所では看取りを行わないことを説明している。状態の変化時には、早い段階から家族と相談し、希望があれば可能な限り事業所での生活が継続できるように取り組んでいる。夜間宿泊してもらうなど家族の協力を得て看取りを行ったこともある。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え<br>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | ・救急車要請の手順は確認している。けがの際は、看護師の指示を仰ぎ管理者・事務長と連携し、連絡方法の徹底を図っている。毎月のミーティングで緊急時対応についての話し合いを持っている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | ・年に2回、昼間想定・夜間想定等の避難訓練を行っている。また、市の指導を受けて水害（洪水）土砂災害に備えた避難確保計画を策定し職員に周知を図っている。 | 夜間想定を含めて年2回訓練を行っている。土砂災害について市の担当者に相談して対策を考えている。食糧は少し備蓄しているが、備品等も含めて不十分である。訓練への参加など地域の協力が得られていない。 | 災害時に、地域の協力が得られるような取り組みを期待する。職員間で話し合い、計画的に備蓄できるよう取り組んで欲しい。 |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| **Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援** | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保<br>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | ・職員は、人生の先輩であり「させていただく」という気持ちで支援するよう職員に統一しているが十分に浸透している状況には至っていない。 | 管理者は、慣れ過ぎた言葉遣いとならないように伝えている。職員は、入室する時はノックして声を掛けるように心掛けている。食事中に、利用者のパットの取扱い方について職員同士で会話をしていた。 | 利用者の自尊心や羞恥心に配慮した会話を心掛けるように職員間で話し合って欲しい。 |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援<br>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | ・訴えがある方はその都度意向に沿うようにしている。帰宅希望にはコロナ禍収束までは無理であることを伝えて我慢してもらっている。また、食材購入等の外出に同行してもらい気分転換を図っている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | ・食事やレクの時間以外は居室で過ごすかリビングでの談笑等も自由にしてきたが、食事摂取の認知症がひどく、盗食癖のある入居者があるため、昼からの2時間ほどを居室で過ごしていただく時間としている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援<br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | ・その人らしい身だしなみやおしゃれができるように服装の汚れや必要以上の厚着や薄着にならないよう服装に気を配り支援している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | ・誕生日には本人の好きな食べ物でお祝いしている。また、コロナ感染に影響しない範囲でいろいろな話題を出し、楽しい食事時間となるよう心掛けている。 | 朴葉寿司やそうめんなど四季が感じられるような献立にしている。箸や湯飲みなど使い慣れた物を持って来てもらっている。家族や地域の方からいただいた野菜を利用者の好みを聞いて調理している。職員も食卓を囲み、会話しながら楽しく食事をしている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | ・気候や健康状態に合わせて各食事の都度に水分補給を心掛けている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持<br>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | ・毎食後の口腔ケア介助、一日一回の義歯消毒、各週一回の歯科医師往診による口腔ケアを行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援<br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | ・排泄チェック表をつけ、誘導が必要な方には定期でトイレ利用のお手伝いをさせてもらう。無理のない程度に自分で行えることは自分で行ってもらっている。 | 職員は、出来る限りトイレに誘導するようにしている。夜間も利用者の状態に合わせて声を掛けてトイレに誘導している。排泄パターンを把握し、職員間で話し合って安易にオムツを使わないように取り組んでいる。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応<br>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | ・便秘が原因で体調不良や不穏に繋がることを理解し、便秘の方を職員一同が把握できるように申し送りしている。バナナジュースや食物繊維の摂取に心がけている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援<br>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | ・一日おきに入浴を行っている。本人が希望しないときは強要しないが、丁寧に入浴を進め、理解を得ている。職員と一対一でコミュニケーションしながらゆっくり入浴してもらっている。 | 湯温や入浴時間など利用者の希望に合わせている。柚湯やしょうぶ湯など季節が感じられるように取り組んでいる。好まれない方には声掛けを工夫している。会話を楽しんだり、ゆっくり浸かったりできるように支援している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援<br>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | ・日中は昼食後の昼寝など、適度な休息を促している。また、夕方以降は夜間の安眠に繋がるように穏やかに過ごせる声掛けや支援を心掛けている。季節にあった寝具や居室の温度を気にかけている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援<br>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | ・個人記録に薬剤情報を載せている。変更があった時にはその都度記録や連絡帳、申し送りで伝えている。調整中の薬の場合はその時の様子などを別紙に記録し主治医に報告、相談している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | ・体操は全員参加を基本とし、小作業の協力を入居者様の状況に応じてお願いし、役割や気分転換の支援をしている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援<br>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | ・桜や紅葉の鑑賞、文化祭の見学など季節ごとに外出の行事等を行って来たが、コロナ禍の影響で見合わせている。 | 職員と一緒に桜や紅葉などを見に出掛けている。利用者から家に帰りたいと言われた時は、自宅近くまで一緒に出掛けている。職員が買い物に行く時に利用者に声を掛けて一緒に出掛けている。家族より孫の結婚式に出席させたいと要望があり、実現させた。 | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援<br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | ・コロナ禍で外出の機会や訪問者の制限によりお金を使う機会がなくなっており、また、紛失の心配もあるため、普段はお金を所持してもらっていない。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援<br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | ・電話をかけたり、かかってきたり、の希望に沿って支援している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | ・廊下には共用作品で季節の壁画を展示し、イベントのスナップ写真等を整理して掲げている。また、リビングは季節ごとの飾りつけに心がけている。 | 十五夜の時は、リビングにススキや団子を飾り季節を感じられるようにしている。廊下にレクリエーションや行事、外出時の写真を飾り利用者の会話のキッカケとしている。職員は、温度や湿度、換気に気を付け快適に過ごせるように配慮している。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ・リビングでは、感情のぶつかる人の接近を避けながら、テレビを見る、作業をする、歌を歌うなどの気の合う集まりが出来るよう工夫をしている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | ・入居時に本人に親しみのあるものを持って来てもらうようお願いし、以前からの生活感が継続できるよう工夫をしている。 | テレビやタンス、マッサージ器など使い慣れた物を持ち込んでもらっている。家族と一緒に写した写真や孫の写真など飾っている。天気の良い日には、居室に面したベランダまで出て、夕暮れに佇んでいる方もある。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり<br>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | ・居室入り口やトイレなどに表札等を貼り、目標物がわかるようにしている。また、安全管理上各室を無施錠としているがプライバシー尊重の観点から入室にノックをするなどの配意を心がけている。 | | |